



東京工業大学大学院にて講義

2017年11月1日、東京工業大学大学院総合科目「現代科学—技術と安全」の講義の一環として、日乗連館野議長と外部講師1名による講義が1時間半に渡り行われました。

これは同大学で、現代社会における先端技術の安全問題について外部講師を招いて行われているもので、航空産業以外にも、原子力発電や遺伝子工学、化学プラント、薬品製造などの各分野における安全の専門家が講師となって講義が行われています。これらは正式な授業として扱われており、履修した学生には単位が与えられます。

航空のテーマは「航空事故調査の立場から見る社会と安全」で、講演内容は以下の通りです。今年度は約80名の学生が履修しました。

- 1) 代表的な事故の分類
- 2) 事故調査はなぜ必要か
- 3) 事故調査の現場
- 4) 原因究明と再発防止
- 5) ヒューマンエラー
- 6) 航空事故と刑事責任

*東京工業大学では民間、外部講師による講義を積極的に取り入れており、元NHKニュースキャスターでジャーナリストの池上彰 特命教授や、パトリック・ハーラン（パクン）非常勤講師も教鞭を執っています。

以 上